

世界遺産アカデミー認定講師 File No.42

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第42回目は、岩手県出身の高橋 良司さんです。高橋さんは旅行会社で観光業に尽力されながら、「世界遺産検定マイスター良さん」の愛称で社内イベントや旅行説明会などで、そのご経験を活かされています。今回は高橋さんに、世界遺産と旅の魅力について、語っていただきました。

——世界遺産は、知的好奇心を高めてくれます。

福島県郡山市で営業担当していた2003年に、同市から世界遺産をテーマにした市民講座の依頼があり、上司から任命されたのが世界遺産を学び始めたきっかけでした。この「世界遺産講座」は1回2時間の全8回シリーズと結構なボリュームで、まだ世界遺産検定が始まる前でしたので、参考情報も少なく、自分なりに「世界遺産とは何ぞや」的な内容を組み立てて講義しました。WHA公式HPで公開中の「認定講師動画」で紹介していますが、「屋久島」は、世界遺産としての保護エリアと観光可能なエリアが異なっていて、お客様から保護エリアに足を踏み入れないと世界遺産の屋久島を旅行したことになる、とのご指摘をいただいたのも、この頃です。きちんと勉強しないと、プロとして恥ずかしいと反省したのを覚えています。

1992年入社私の私にとって、翌年に「白神山地」が世界遺産に登録されたことも、印象深い出来事でした。ご存知の通り、「白神山地」は、青森県と秋田県にまたがっています。岩手県で生まれ、福島県で働いているのに、東北で最初の世界遺産を全く知らなかったことに恥ずかしさを覚えました。当時は法人営業担当でお客様のニーズに応えたツアーを作るのが主な仕事だったため、自分が考えたツアー商品を企画・実施するのは難しいことでしたが、現在、私が所属する JTB メディアリレーリングでは、得た知識をそのままダイレクトに旅行商品に反映させられる環境にあります。世界遺産検定マイスターに合格し、認定講師になったことで周囲からの反響もあり、世界遺産関連ツアーをたくさん作ることができるようになったので、頑張って勉強して良かったと思っています。また、社内に還元すべく、世界遺産検定を受ける社員には、個別で「世界遺産講座」をしたり、オリジナルで作成した問題を渡したりしています。

世界遺産については、できるだけ分かりやすく伝えるよう意識しています。添乗業務でも求められることですが、色々なお客様がいらっしゃいますので、同じ内容のことでも少しずつ言い換えて理解してもらえるように工夫しています。話すネタも引き出しを多く持っておいて、とにかく興味を持っていただけるよう、気を配っています。私個人としては、世界遺産を勉強して知的好奇心が刺



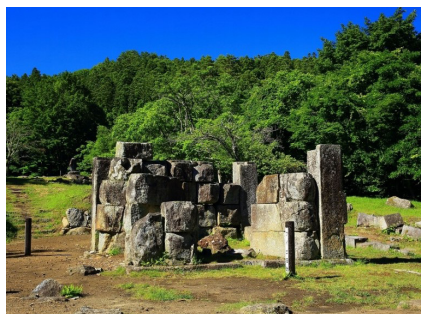
小学5年の時、バスツアーにひとりで参加し、登頂した富士山

激され、それがさらなる知識欲に繋がり、日々の仕事に生かせているので、とてもやりがいを感じています。

——「旅の余白」と郷土への想い

小学生の頃から松尾芭蕉(まつお・ばしょう)の「奥の細道」を愛読していたので、ひとりで平泉や山寺に出かけたり、小学校6年生の時には「卒業旅行」と称して、世界遺産登録前の法隆寺と東大寺と姫路城へひとり旅を敢行したりしていました。この「卒業旅行」当時、上野～盛岡間は特急電車で6時間かかりましたし、大学時代もお金がなかったので、「青春18きっぷ」で鈍行(各駅停車)を乗り継いで、毎回10時間かけて帰省していました。今や、「東京～盛岡」は東北新幹線で約2時間半とだいぶ近くなりましたが、子どもの時の距離感がずっと残っているので、首都圏・東京と岩手は別世界という感覚があります。個人的な想いですが、移動に時間をかけた分、徐々に変わっていく景色を楽しめたり、列車の中で知らない人と相席になって方言交じりの会話を楽しんだり、その土地の生活に密着したところに触れることができました。新幹線が主流の昨今、少しもの寂しさがあります。「旅の余白」ともいべき部分が狭まってきているように感じています。またいつか鈍行でゆっくりと日本全国を周りたいですね。

岩手出身ですので、オススメの世界遺産には「明治日



“鉄とラグビーのまち”、釜石に在る橋野鉄鉱山

本の産業革命遺産」の「橋野鉄鉱山」を挙げたいと思います。歴史の中でも幕末が好きですが、旧・南部藩出身の人間としては、近代日本に繋がる功績を残した人物、大島 高任をもっと評価してもらいたいですね。大島は、長崎で学び、水戸藩で鑄造に貢献し、釜石で鐵鉱を見出し、お殿様をくどいて、鉄生産のための洋式高炉を建設しました。それが日本の近代化に繋がっていき、「近代製鉄の父」と云われていますけれども、やはり製鉄なしに近代化を実現すること、産業革命そのものを語ることはできません。こういう人物が立役者だったことを知っていただけたら嬉しいです。嬉しいです。元ラグーマンとしても、ぜひ多くの人々に釜石を訪れてほしいですね。

——旅に後悔なければ、人生悔い無し

WHA認定講師としては、世界遺産の魅力を教えるだけでなく、何か執筆もしてみたいと思っていますし、旅行会社の人間だからこそ行ける限りの世界遺産を訪れて、世界遺産と旅行を組み合わせ自分の経験を伝えるような活動の幅を広げていきたいです。「世界遺産ツアーの選び方」、「空港の活用の仕方」、「飛行機の中での上手な過ごし方」といったTIPSを取り上げたり、お客様相談室を担当していたこともありますので、「旅行トラブル」に関しても、文章や動画配信でご紹介したり、など。また、海外の方と協力して、世界遺産の保全・保護活動も、機会があればやってみたいです。SDGsの実現を求められている今日、世界遺産は1,000件を越えています。遺産を守っていくことは容易ではありません。ひとりの力ではできないことも、世界遺産をうまく次世代に引き継いでいけるような活動のお手伝い如果能したら、と願っています。



アルメニアの世界遺産、エチミアジン大聖堂
首都エレヴァンから臨むアララト山もおすす

未訪問の世界遺産のための時間を作ることが当面の課題ですが、コロナ禍で外出自粛が長引いているため、健康の維持と体力増強に努めています。また、日頃お客様にもアドバイスしていることですが、「心の柔軟性」も失わないように気をつけています。年を重ねると、自分が暮らしている環境と異なる環境に対して、メンタル的な耐性が弱くなっていきます。臭い、味、清潔度合い……。若い頃は我慢できても、次第に忍耐力が失われていきます。旅行の経験値も個々に違いますので、平気で耐えられる方もいますし、耐えられなくて旅行がまったく楽しめず、グメだったというお客様もいます。現地に行ってみないと分からないこともありますので、未知のものや新しい物事に対する柔軟な感覚を失わないうちに、行きたいところに旅された方が良いと思います。

世界状況は刻々と変化していますので、今行ける場所が将来行けなくなったり、今は無理でも行けるようになったりする所が出てくるかもしれません。「後悔、“役に立たず”」。コロナ禍で海外旅行を諦めてしまっている方々が多くいらっしゃいますが、あそこに行っておきたかったなあ……と後悔しながら最期を迎えるより、行きたい所には行けるタイミングで、出かけられることをお勧めします。旅に悔いが残らなければ、きっと人生にも悔いが残らないと思います。